

【調査研究報告】

豊中市の子どもの学びと育ちに関する 総合的な調査研究Ⅱ

- 第1章 豊中市の子どもの学びと育ちに関する
総合的な調査研究Ⅱ 総論
- 第2章 児童生徒の学力とレジリエンス
- 第3章 授業理解度・学習時間・学習方略の推移
- 第4章 ICT 機器使用と学力
- 第5章 メディア接触の子どもへの影響
- 第6章 体験格差と学力・非認知能力
- 第7章 読書と学力・非認知能力
- 第8章 児童生徒の健康の規定要因と推移
- 第9章 幼児の肥満・う歯の規定要因と
レジリエンス
- 第10章 子どもデータ利活用に関する
先行自治体の取組み事例
- 資 料 児童生徒・保護者アンケート調査票

とよなか都市創造研究所では、市の持続的な発展と計画的な市政の推進に資するため、市を取り巻く社会経済環境の変動を見据えながら、中長期的視点に立った都市政策に関する調査研究を実施している。

令和5年度（2023年度）から令和7年度（2025年度）にかけての調査研究事業は、「豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究」として、豊中市のすべての子どもの可能性・チャンスの最大化に向けたプロジェクトに取り組む計画となっている。プロジェクトの2年目にあたる本年度は、昨年度と同様にデータの収集・構築を進め基礎的な分析を実施するとともに、統計分析の精度向上やパネルデータの分析、新規テーマの分析など新たな展開も図った。

第1章では、今回のプロジェクトの目的、今年度の方向性、使用データなどについて整理している。

第2章から第8章にかけては、統計分析の結果をまとめている。第2章は学力、第3章は授業理解度・学習時間・学習方略、第4章はICT機器使用、第5章はメディア接触、第6章は体験、第7章は読書、第8章は健康（自覚症状）、第9章は幼児の肥満・う歯がテーマである。

第10章では、子どもデータ利活用の先行自治体の取組みについてまとめている。